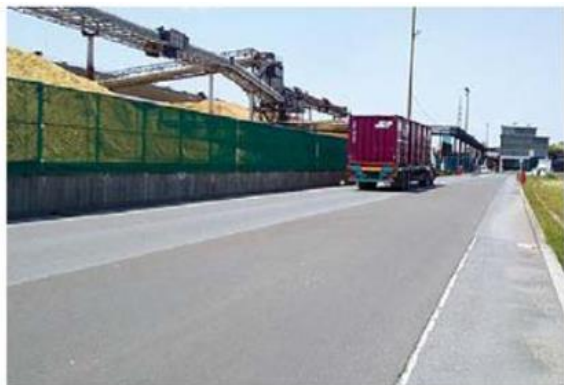


# 施工15カ月後も良好

大成ロテック バイオアス混合物



右車線が施工15カ月後のバイオアスファルト混合物

大成ロテックは、同社が開発した環境配慮型の道路舗装材料「バイオアスファルト混合物」について、試験施工箇

所の供用15カ月追跡調査を実施し、良好な供用性を確認した。試験施工箇所である木材チップを積載した大型トラクターが往来する車道で、わだち掘れやひび割れなどが見られなかった。試験施工は、2020年3月に共同研究先の日本製紙の石巻工場構内で実施した。

は、主要材料の石油アスファルトの一部を樹木の主要成分であるリグニンに置き換えることで、舗装内に炭素を固定する。試験施工に使ったバイオアスファルト混合物は、主に重交通道路で採用されるポリマー改質アスファルトⅡ型を使った最大粒径20ミリの密粒度アスファルト混合物のアスファルトを、クラフト製法の副産物として木材チップから得られたクラフトリグニンに容積で10%置き換えたもの。試算によると、混合物の素材から製造までのCO<sub>2</sub>収支を約30%削減できる。

現在は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の戦略的省エネルギー技術革新プログラムで開発を進めている。今後は、リグニン使用量の増加、アスファルト混合物製造方法でのCO<sub>2</sub>削減により、カーボンネガティブな舗装材料を開発したい考え。